

2023年9月6日

各位

株式会社リード

塗装フィルムの製造方法に関する特許技術のご紹介

弊社では、お客様のニーズにお応えするため、開発技術力の向上に日々注力しておりますが、今回、鳥居工業株式会社様と協同で特許取得した、「**塗装フィルムの製造方法**」と、それを活用した**本塗装フィルム**について、ご紹介させていただきます。

【発明の名称】

塗装フィルムの製造方法

【特許請求の範囲】

- ① ポリ塩化ビニル系樹脂を含むフィルム状の基材の一方の面上に、シクロヘキサノンを含む下地層を形成する**下地層形成工程(プライマー塗装工程)**と、前記下地層上に塗装によって、メラミン樹脂塗料、エポキシ変性メラミン樹脂塗料またはフッ素樹脂塗料で構成された着色層を形成する**着色層形成工程(ベース塗装工程)**と、を有することを特徴とする**塗装フィルムの製造方法**。
- ② 前記着色層形成工程の後に、前記着色層上にクリア層を形成する**クリア層形成工程(クリア塗装工程)**を有する①に記載の**塗装フィルムの製造方法**。

【背景技術】

- ・従来から、自動車の外装部品に貼着することで独自の意匠性を付与するための加飾フィルムが知られています。
- ・また、近年では、ボンネット、ルーフ、ドア、リアゲート、サイドミラーなどの区切られた領域を他の領域と異なる色に加飾することも流行しています。
- ・また、このような加飾の方法として、ボディを再塗装する方法、加飾フィルムを貼着する方法が知られています。

【発明が解決しようとする課題】

- ・しかしながら、加飾フィルムでは、例えば、自動車のボディ(外装)と似た質感を表現することができず、加飾フィルムとボディとの質感の異なりから、美的外観を損ねてしまうという課題があります。
- ・また、ボディを再塗装するとなると、コストが高くなるという課題があります。

【課題解決のための本発明の目的・効果】

- ・そこで、本発明の目的・効果は、自動車などの被着体(特に塗装面)とほとんど同じ質感を有し、被着体に貼着した際の美的外観の低下を抑制することができる**塗装フィルムの製造方法**を提供することにあります。
- ・また、再塗装するよりも、コストの削減が図れ、コーディネート自由度も上がり、CO2削減効果も期待できます。

【本塗装フィルムの活用例】

- ・上記【技術背景】で記載したような、自動車のボンネット、ルーフ、ドア、リアゲート、サイドミラーなどの区切られた領域を他の領域と異なる色に加飾できます。
- ・自動車をこすった時に、別添の塗装フィルム(純正ボディカラー リペアフィルム)を貼着することで、一般の方でも簡単に補修が可能です。
- ・バイクや家具のコーディネートにも活用可能です。

【本塗装フィルムの特徴】

- ・自動車用ボディー塗装に採用された塗料による塗装フィルムのため、信頼性が高く、また、任意カ所に必要な範囲で貼り付けが可能です。
- ・貼り付け状態では、90度以上折り曲げても塗膜割れはございません。
- ・必要なくなったら、はがして初期状態に戻すことも可能です(要糊残り除去)。
- ・自動車用ボディー塗装に採用された塗料による塗装フィルムのため、質感が高く、多くの車両色をラインナップしております。
- ・工業用フィルム設計により、はがれの心配がございません。

【特許番号】

特許第6864710号

【特許取得日】

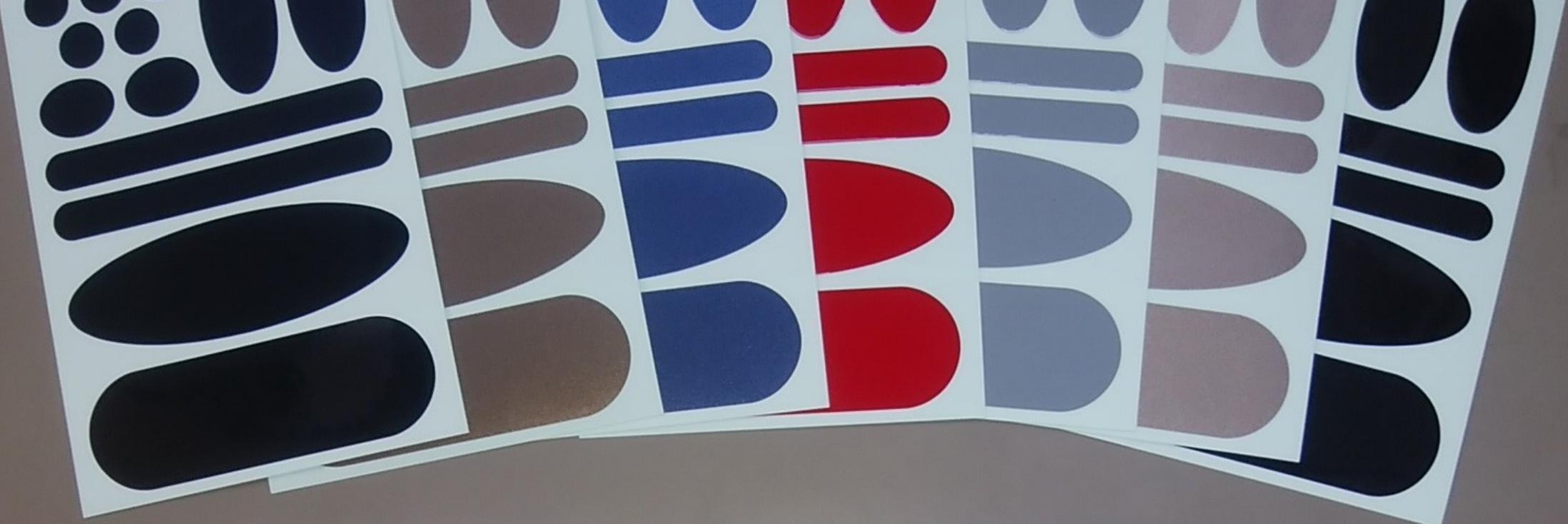
2021年4月6日

【特許権者】

鳥居工業株式会社 (東京都八王子市高倉町66番地1)

株式会社リード (埼玉県熊谷市弥藤吾578)

以上



SUBARU 車 専用色

純正ボディカラー
リペアフィルム

before 



after

貼るだけ 

